飛騨農林事務所の普及活動状況（令和６年 10 月 31 日現在）

今月の重点活動

■夏秋トマト　短期作型の３Ｓシステムに関する説明会を開催

【導入メリットを語る生産者】

10 月 25 日、飛騨総合庁舎にて夏秋トマト短期作３Ｓシステム説明会を開催した。従来の３Ｓシステムが長期多段作型に対応した誘引方法であるのに対して、短期作３Ｓシステムは、土耕栽培に近い栽培期間や誘引方法であるため、土壌病害対策を目的とした低コストな栽培技術となっている。

当日は土壌病害等に苦慮する生産者を中心に 14 名の出席があり、中山間農業研究所から従来の３Ｓシステム、農業普及課から短期作３Ｓシステムの説明を行った後、現地ほ場を視察した。視察先生産者からは、近年の夏季の高温により土壌病害が増加する中、短期作３Ｓシステムの導入により収量性が改善したと報告があり、土壌病害回避やコスト低減等の導入メリットに関心が寄せられていた。

今後、農業普及課では、システム導入支援のために参加者と個別に面談を行い、具体的な計画について支援していく。

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■水稲・大豆　スマート農業技術の実演会を開催

【営農管理システムの説明】

農業普及課では、昨年度から国の「戦略的スマート農業技術の実証・実装」プロジェクト取り組んでいる。

２年目の今年も、飛騨市古川町の大区画に整備したほ場における水稲と大豆作で、豚ぷんペレットの利用とスマート農業技術を組み合わせた栽培実証を行っている。

10 月 23 日には、本実証で用いているスマート農業機器の効果を農業者等に広く情報発信し、技術を普及するための実演会を開催した。当日は、農業普及課から実証プロジェクトの概要を説明したのち、スマート機器を上手く活用するための営農管理システムの説明と優良事例の紹介があった。また、明きょを同時に設置する大豆の播種機を始めとしたスマート農業機器の展示も行った。参加した農業者の関心は高く、約 50 名が熱心に機械性能や技術体系を学んだ。

今後は関係機関と連携して２年間の成果を取りまとめ、本実証技術の飛騨地域への波及に取組む。

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■果樹　令和７年版　果樹病害虫防除暦編集会議を開催

【編集会議の様子】

飛騨農業振興会は、毎年１月に発行する果樹病害虫防除暦（もも、りんご、なし）の令和７年版作成に向け、10 月 23 日に第１回編集会議を開催した。

会議には飛騨農業振興会、全農岐阜、JA ひだ、中山間農業研究所、病害虫防除所、農業普及課が参加し、当課が作成した資料に沿って、各種病害虫に対処するための薬剤選択や、それらの薬剤の暦への記載方法等を検討した。本年はリンゴ褐斑病が多発し、生産現場で問題となったことから、当該病害に重点を置いた防除暦の改正案となった。

今後は、12 月中旬に開催される JA ひだ果実出荷組合協議会役員会において、改正案を検討し、12 月末に令和７年版果樹病害虫防除暦を決定する。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、気象データ及び病害虫発生状況に基づいた総合防除（IPM）体系の確立を目指して、果樹生産者を支援していく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト　高山トマト部会青年部夜間勉強会を開催

旧高山地域の若手トマト生産者で組織する高山トマト部会青年部では、栽培の終盤を迎える９月～10 月に、その年に問題となった課題をテーマに勉強会を毎年開催している。

本年度は、10 月 25 日に生産者約 20 名が出席し、梅雨時期や夏季のしおれ対策について、農業普及課、JA 営農指導員、資材メーカーからの情報提供や生産者同士の意見交換が行われた。農業普及課からはしおれ対策で重要となるトマトの根張りを良くするための技術として堆肥や緑肥の施用、土壌還元消毒の方法について紹介し、活発に質問が出るなど高い関心が寄せられた。

今後、農業普及課では、生産者との個別面談を行い、個々の栽培上の課題解決によるトマトの安定生産を支援していく。

【しおれ対策について情報提供】

■ほうれんそう　営農支援アプリ研修会を開催

10 月 30 日、ほうれんそうの栽培管理の DX 化（データやデジタル技術を活用して経営改善を目指すこと）を目的に、飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会員を対象とした営農支援アプリ研修会を、岐阜県農政部農政課スマート農業推進室主催で開催した。営農支援アプリは、栽培管理作業の入力および情報共有を行うことができ、栽培管理等の振り返りや改善につながることが期待される。

研修会には、生産者 13 名が参加し、営農支援アプリの内容及び入力方法について開発メーカー担当者より説明を受けた。参加者は実演機によりアプリの操作性を確認するとともに、肥料及び農薬をリストから選択できる機能の追加などについて活発な意見交換が行われた。

【研修会の様子】

今後、農業普及課では、ほうれんそう栽培での DX 化を進める１つの手段として、本アプリの試験利用に向けて協力農家の選定を進めていく。